# 「競合店対抗値下げ補てん」で資料照会

## 公正取引委員会

公正取引委員会は8月10日、関東を中心にスーパーマーケット事業を展開するオーケー㈱（二宮涼太郎社長＝本社・横浜市西区みなとみらい）が自社店舗の販売価格を競合店と同額まで引き下げて販売した場合に、差額の全部または一部を納入業者の負担とする「競合店対抗値下げ補てん」の要請を納入業者に対し行の事実やその運用などについて、優越的地位の濫用の観点から問題がないかなどを確認するため、オーケーに資料を求めるなどしたところ、同社から自発的に同補てんを取りやめた旨の報告を受けたため、懸念はなくなったものと判断したと発表した。

公正取引委員会は、原材料価格などの高騰を踏まえた価格転嫁の円滑化に向けた独占禁止法執行の強化活動の一環として、大規模小売業者と納入業者との取引適正化のため、取引実態について情報収集を積極的に行なっている。

オーケーについては、同補てんを取りやめたとしても、今後、納入価格の引き下げ交渉において取引の対価の一方的決定などが行なわれれば、優越的地位の濫用の問題となることから、そのような行為が行なわれることがないよう、優越的地位も、大規模小売業者と納入業者との取引の適正化に向けて監視を続けていく旨を伝達したとのこと。

公正取引委員会は、引き続き大規模小売業者が納入業者に対して不当に納入価格の引き下げを行なうことがないよう、優越的地位の濫用の問題の有無を確認するなどの監視を行ない、適正な価格転嫁の実現に向けて、大規模小売業者と納入業者との取引の適正化の確保に努めるとしている。

# 9月の鶏肉輸入予測7.5%減

## 日本食肉輸出入協会

日本食肉輸出入協会は8月22日に鶏肉輸入動向検討委員会の検討結果を公表した。

鶏肉の輸入量について8月は前年同月比3・0%増の4万8800㌧（内訳はブラジルが0・5%減の3万4700㌧、タイが16・0%増の1万3000㌧、米国が8・2%減の1000㌧、その他が51・7%減の100㌧）。

9月は7・5%減の4万3300㌧（内訳はブラジルが12・8%減の2万9100㌧、タイが8・3%増の1万3000・2%減の100㌧）と予測している。

輸入鶏肉をめぐる情勢については「新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴う外食、行楽などの人流の活発化、インバウンドの順調な回復などを背景に、輸入鶏肉の消費需要も安定的に推移してきている。

7月にブラジルのサンタカタリーナ州で発生した高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）の影響は、ブラジルとタイにおける鶏肉価格の上昇のほか、特に9月の輸入量減少を招くものと予測して体で大きな減少には至らないものと考えている。

すでにサンタカタリーナ州からの輸入は8月18日付で解禁されており、今後、牛肉と豚肉の高水準の国内庫腹状況などの不安定要素はあるものの、HPAIの続発が認められなければ、冬場の需要期に向けて輸入も順調に推移していくものと推測している」と説明している。

# トウモロコシ5ドル弱 大豆14ドル前後で推移

## 高温乾燥懸念で反発

シカゴ先物市場のトウモロコシ相場（9月限）は8月28日現在、前月同日より約58セント安い4ドル75セント前後、大豆相場（同）は約61セント安い13ドル93セント前後で推移している。

8月11日の米国農務省（USDA）の需給予測では、6月前後の産地の乾燥した状況を反映して、収穫量が下方修正された。ただ、同時に国内需要や輸出も下方修正されたことや、7月以降は降雨に恵まれたことから、トウモロコシ相場は7月24日の5ドル60セント、大豆相場は同26日の14ドル68セントを直近のピークとして、8月中旬まで下落傾向で推移してきた。

ただ、直近では中西部の高温乾燥への懸念が再び高まっている。米国では、地域によって華氏110度（約43℃）を超えるような熱波に襲われているとのこと。最新の調査では、見込み単収がトウモロコシが172ブッシェル、大豆が49・7ブッシェルとなり、それぞれUSDAが8月11日に示した予測の175・1ブッシェル、50・9ブッシェルを下回った。特に大豆は相場の反発傾向が顕著になっており、12月は14ドル4セント前後まで値を戻している。

## 近畿農政局「夏休み親子見学デー」出展

### 兵庫牧場

（独）家畜改良センター兵庫牧場は、8月2～3日に農林水産省近畿農政局（京都市上京区）で開かれた「夏休み親子見学デー」に参加し、『ニワトリってなんだろう？』をテーマに、ニワトリに関するパネル展示と、ニワトリクイズを実施し、クイズに挑戦した子どもたちには、ニワトリの羽をプレゼントした。

兵庫牧場では、ホームページで「いつも食卓で目にする卵や鶏肉のことを、子どもたちや保護者の方に少しでも知ってもらえる良い機会になったのでは。保護者の中には、国産鶏種はりま・たつのに興味をもって質問いただく場面もあり、兵庫牧場を知ってもらう良

# 鶏肉、鶏卵関係約20社出展

## アグリフードEXPO 4年ぶりに実開催

エヌチキンならではの種鶏肉や親鶏肉商品がずらり。南九州の鶏食文化も伝えた

ウェルファムフーズは銘柄鶏肉「森林どり」を機能性表示食品としてPR

オヤマは「からあげ家　奥州いわい」のフラッグを掲げ「いわいどり」関連商品をPR

江夏商事は「ヤゲン軟骨の炭火焼き」などを出展。あえて周囲の肉を付けたまま焼き上げる

貞光食糧工業は「熟成阿波尾鶏」のもも肉、むね肉を並べて試食提供を行なった

フレッズは国産の親鶏肉、鹿肉、猪肉などを展示し、小売り・飲食関係者に注目された

丸本は堀内本部長㊨がバイヤーらと商談。「阿波尾鶏」と加工品の良さを伝えた

くらもちはエイビアリー方式（多段式平飼い）で生産するブランド卵を展示

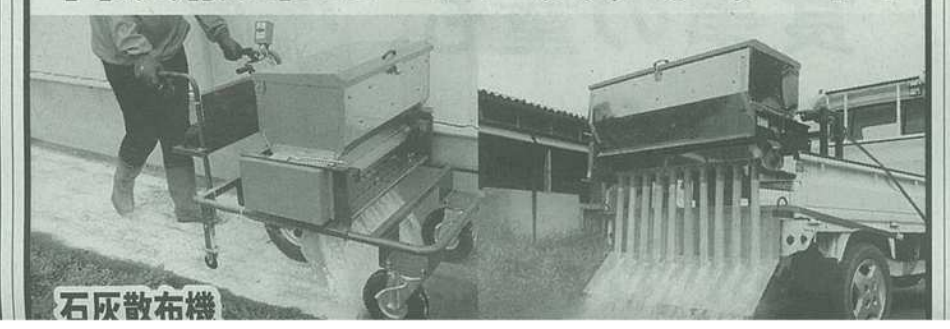
ひたち農園は髙橋センター長㊨らが外食や輸出関係者らに「奥久慈卵」をアピール

日本公庫が主催する国産食品展『第16回アグリフードEXPO東京2023』が8月23、24日に東京都江東区の東京ビッグサイトで開かれた。

実会場での開催は4年ぶり。約470社が価値を高めた食材や加工品を中心にPRし、鶏肉・鶏卵関係も約20社が参加した。本紙関係の出展者と主な展示品は次の通り。

▽鶏肉関係＝赤鶏農協（鹿児島・赤鶏さつま使用よしもとカレー）、㈱ウェルファムフーズ（東京・森林どり産地パック品）、江夏商事㈱（宮崎・若どりヤゲン軟骨（肉付き）の炭火焼き）、㈱エヌチキン（鹿児島・鶏飯スープや種鶏肉たたき）、㈱オヤマ（岩手・いわいどり使用のおでんや室根からあげ）、貞光食糧工業㈱（徳島・熟成阿波尾鶏肉）、㈱南部食鶏（愛知・純系名古屋コーチン加工品）、復興庁（伊達鶏など東北産品）、㈱フレッズ（広島・親鶏炭火焼きや国産ジビエ）、㈲ポニイ（島根・益田名物びっくり焼き〈親鶏の骨付き焼き鳥〉）、本家白川けいちゃん㈱（岐阜・冷凍鶏ちゃん〈自販機など向け〉）、㈱丸本（徳島・阿波尾鶏の削り節やカレー）

▽鶏卵関係＝㈱アーク（岩手・放し飼い卵）、㈱あさぎり宝山ファーム（静岡・富士の名月）、㈱出雲ファーム（山口・とりたまカステラ）、㈱くらもち（茨城・平飼いたまご〈エイビアリー方式〉）、㈱半澤鶏卵（山形・半熟くんせい卵スモッチ）、㈱ひたち農園（茨城・奥久慈卵や卵焼き）、㈱吉田ふるさと村（島根・卵かけご飯用しょうゆ）

石灰散布のニュースタンダード!



ワクモ対策環境衛生資材等
イチオシ!!
Bird Shield ビールド
【日本での製品特許申請中】
◇ 脱薬剤を目的に開発された「ワクモ対策用添加飼料」です。主要成分は天然ハーブから抽出された100%オーガニック原料を配合してあります。詳しくはお問合せ下さい。